



2026年7月14日

各位

会社名 株式会社VRAIN Solution
代表者名 代表取締役社長 南場 勇佑
(コード番号: 135A 東証グロース市場)
問合せ先 取締役 コーポレート部部长 菊地 佳宏
(TEL 03-6280-4915)

2027年2月期 第1四半期決算内容に関する質疑応答

本資料は、当社が本日発表いたしました 2027 年 2 月期 第 1 四半期決算内容に関し理解を深めて頂くことを目的として、当社が質問内容を想定して作成したものととなります。

記

質問 1. 当第 1 四半期決算に対する会社の評価を教えてください。

回答 1. 当第 1 四半期の売上高は、前年同期比約 3.3 倍と大幅な増収を達成いたしました。利益面におきましては、将来の成長に向けた投資等に伴い販管費が増加したものの、増収効果によりこれを吸収しました。営業損失は 31 百万円（前年同期から 197 百万円の改善）にとどまり、概ね期初想定通りの着地となっております。

質問 2. 当第 1 四半期の売上高が大幅な増収となった理由について教えてください。

回答 2. 前期より推進してきた営業工程における分業体制の確立が奏功いたしました。前期において納品及びアフターフォロー業務をサポート人員へ移管したことで、営業人員が新規受注活動に注力できる環境が整いました。その結果、当期は期初より効率的な営業体制で運用できたことが、大幅な増収に寄与いたしました。

質問 3. 名古屋工場はいつから稼働する予定か教えてください。

回答 3. 対象物件の不動産賃貸契約は既に締結を完了しており、現在は稼働開始に向けた準備を進めております。稼働開始は本年 7 月下旬を予定しております。

質問 4. 当第 1 四半期は、継続顧客からの売上高が 513 百万円と売上高全体の 79.1%を占めており、リピート案件の獲得が順調と見受けられますが、現在の取引社数 358 社に対する別ラインや別工場への横展開の余地をどのように見積もっていますか。また、継続顧客の売上比率は今後もこの高い水準（約 8 割）を維持する想定ですか。

回答 4. 既存顧客における潜在需要は、顧客ごとの工場数、ライン数、投資計画等に依存するため、現時点で一律の具体的な数値としての算出は困難ですが、横展開の余地は極めて大きいと認識しております。市場の人手不足を背景とした製造業の自動化・省人化ニーズは根強く、主要顧客における深耕余地は多分に残されています。なお、当第 1 四半期はリピート案件が先行して寄与したため約 8 割となりましたが、今後は新規顧客の開拓・獲得が順調に進むことにより、通期ベースでは 5 割程度に推移していくものと想定しております。

質問 5. 当第 1 四半期末時点の受注残は 1,386 百万円と順調に積み上がっていますが、この受注残が売上計上される時期を教えてください。

回答 5. 当第 1 四半期末時点の受注残高 1,386 百万円のうち当第 2 四半期において約 1,000 百万円、下期に約 386 百万円の売上計上を見込んでおります。

質問 6. A I システムの販売単価が 22 百万円（前期末比 20.6%増）に上昇しており、その要因として「装置案件の割合増加」が挙げられています。装置案件の増加に伴い供給能力が逼迫する可能性について教えてください。

回答 6. 当社は中期経営方針において売上高 1.5 倍成長を掲げており、その達成には旺盛な顧客需要に対応する供給能力の拡充が不可欠であると認識しております。そのため、装置の設計・製作からアフターフォローまでを担うサポート人員の増員と、新たな製作拠点となる「名古屋工場」の設置を予定しております。これらの施策により、今後の需要拡大に対しても必要十分な供給体制が整うものと考えております。

質問 7. 資産合計が前期末の 3,215 百万円から当第 1 四半期末時点 2,505 百万円に大幅に減少している理由及び純資産比率が前期末の 64.9%から 82.5%に増加している理由について教えてください。

回答 7. 資産合計の減少は、財務健全性の向上を背景とした一過性の変動です。主な要因は、法人税等の支払に伴う「現金及び預金」の 118 百万円減少、及び「売掛金及び契約資産」が 733 百万円回収されたことによるものです。この回収資金を原資として短期借入金を全額返済（負債の圧縮）した結果、総資産がスリム化した一方で純資産が維持され、純資産比率は相対的に上昇しました。

質問 8. 業績予想に対する進捗はどのように捉えていますか。

回答 8. 当第 1 四半期末時点で 1,386 百万円の受注残を確保していることを勘案すると、第 2 四半期累計期間の業績予想（売上高 1,800 百万円）の達成は十分に視野に入っております。総じて業績は順調に進捗しており、通期業績予想（売上高 4,823 百万円）の達成に向けても、引き続き新規受注の獲得に注力していく方針です。

質問 9. イラン等の中東情勢の緊張緩和によるビジネスへの影響について教えてください。

回答 9. これまで中東情勢の緊迫化が当社の業績に直接的な影響を及ぼす事象は発生しておりませんでした。一方で、中東情勢の緊張緩和後もエネルギーコスト等の高止まりは当面継続すると見込んでおり、主要顧客である製造業における生産コスト上昇に伴う影響を注視しております。製造業の業績動向によっては設備投資の抑制や D X 関連予算が縮小される可能性も想定し、引き続き市場環境の変化に警戒してまいります。

免責事項

本資料は、情報提供のみを目的として当社が作成したものであり、当社の有価証券の買付け又は売付け申し込みの勧誘を構成するものではありません。

本資料に含まれる将来予想に関する記述は、当社の判断及び仮定並びに当社が現在利用可能な情報に基づくものです。将来予想に関する記述には、当社の事業計画、市場規模、競合状況、業界に関する情報及び成長余力等が含まれます。そのため、これらの将来予想に関する記述は、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の業績は将来に関する記述に明示又は黙示された予想とは大幅に異なる場合があります。

したがって、将来予想に関する記述に全面的に依拠することのないようご注意ください。

本資料には、当社の競争環境、業界のトレンドや一般的な社会構造の変化に関する情報等の当社以外に関する情報が含まれています。当社は、これらの情報の正確性、合理性及び適切性等について独自の検証を行っておらず、いかなる当該情報についてこれを保証するものではありません。

以 上